

施策評価（令和8年度）

戦略6 教育・人づくり戦略			
目指す姿1 秋田の将来を支える高い志にあふれる人材の育成			
幹事部局名	教育庁	担当課名	高校教育課
評価者	教育委員会	評価確定日	令和8年7月31日

1 施策（目指す姿）のねらい（施策の目的）

ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志を持ちながら、最先端のデジタル技術や高度な専門的知識を活用し、社会における様々な課題の解決や新たな価値の創造を実現できる多数の人材の輩出を目指します。

2 施策の状況

2-1 成果指標の状況及び定量的評価

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	配点	備考
①	【施策の方向性①、②】 高校生の県内就職率(公立、全 日制・定時制)(%) 出典:県教育庁「秋田県高等学校卒業者の 進路状況調査」	目標			75.5	77.0	78.5	80.0	86.8%	2	
		実績	67.7	72.5	73.8	71.3	73.2	69.4			
		達成率			97.7%	92.6%	93.2%	86.8%			
②	【施策の方向性①】 将来の夢や目標を持っている児 童生徒の割合(小6、中3)(%) 出典:文部科学省「全国学力・学習状況調 査」	目標			85.0	86.0	87.0	88.0	92.8%	3	
		実績	86.2	—	81.4	81.4	81.0	81.7			
		達成率			95.8%	94.7%	93.1%	92.8%			
③	【施策の方向性①、②】 高校生のインターンシップ参加率 (公立)(%) 出典:県教育庁調べ	目標			64.5	65.0	65.5	66.0	82.4%	2	
		実績	64.6	—	48.2	61.3	58.5	54.4			
		達成率			74.7%	94.3%	89.3%	82.4%			

※ 指標の判定基準

4点: 達成率 $\geq$ 100% 3点: 100% $>$ 達成率 $\geq$ 90% 2点: 90% $>$ 達成率 $\geq$ 80%
1点: 80% $>$ 達成率 $\geq$ 70% 0点: 70% $>$ 達成率 n: 実績値が未判明

定量的評価結果	計算式
2.33 (e相当)	4点 × 0個 = 0点 1点 × 0個 = 0点
	3点 × 1個 = 3点 0点 × 0個 = 0点
	2点 × 2個 = 4点
	合計 7点 ÷ 3個(判明済み指標) = 2.33

※ 成果指標において実績値が未判明となった指標がある場合には、それを除いて平均点を算出する。

※ 定量的評価の判定基準

a相当: 平均点が3.6点以上 b相当: 平均点が3.2点以上3.6点未満 c相当: 平均点が2.8点以上3.2点未満
d相当: 平均点が2.4点以上2.8点未満 e相当: 平均点が2.4点未満

2-3 主な取組状況とその成果

【施策の方向性① 地域に根ざしたキャリア教育の推進】 - 職場定着就職支援員(20名)を配置し、求人開拓や生徒・保護者に対する情報提供・進路相談を行ったほか、地域に根ざした企業を紹介する「ふるさと企業紹介」を実施した。 - 小・中学校においては、児童生徒の望ましい勤労観・職業観を醸成するため、職業調べや職場見学、職場体験等を実施した。将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合は、目標値に届かなかったものの、前年度に比較して微増しており、全国平均(75.3%)を大きく上回っている。 - 就職情報ネットワーク会議等で関係機関の共通理解を図りつつ、インターンシップ推進事業やふるさと企業紹介事業、関係機関と連携した各種セミナーなどを系統的に実施することで、高い県内就職率を維持している。 【施策の方向性② 社会の変化とニーズに応じた専門教育の推進】 - 産業人材育成事業の一環として、由利工業高校の生徒が航空機部品などを製造している地元企業でのインターンシップに参加し、設計から検査までの一連の工程を体験する実践的なプログラムに取り組んだ。また、スマート農業に関する専門知識及び技術を有する外部講師を招き、県内の農業科及び工業科の教員を対象とした教員研修会を実施することにより、最先端の技術を身に付けて活躍できる人材の育成に向けた指導力の向上を図った。

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
e	成果指標の達成率を基にした定量的評価は2.33で「e相当」であることから、総合評価は「e」とする。
	【定性的評価として考慮した点】 .

4 県民意識調査の結果

質問文	学校教育を通じて、ふるさとを愛し、社会で活躍しようとする心が育まれている。					
満足度	調査年度	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	肯定的意見	18.4%	13.8%	13.3%		
	十分 (5点)	2.3%	2.0%	1.7%		
	おおむね十分 (4点)	16.1%	11.8%	11.6%		
	ふつう (3点)	49.2%	43.2%	43.8%		
	否定的意見	15.5%	26.4%	24.1%		
	やや不十分 (2点)	9.7%	16.8%	16.1%		
	不十分 (1点)	5.8%	9.6%	8.0%		
	わからない・無回答	17.0%	16.7%	18.8%		
	平均点	2.99	2.76	2.79		

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。
※2026(R8)年度は同様の質問を実施していないため、結果は記載していない。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	○ 指標として設定している「高校生のインターンシップ参加率」は、進学者の多い高校において大学卒業後のキャリア形成を見据えたインターンシップの重要性を十分に浸透させることができず、4年間の目標を達成することができなかった。 ○ 特別支援学校の進路選択において、現行の雇用形態が実態やニーズに合わず、就職を希望しながらも諦めざるを得ないケースが一定数存在する。	○ 令和8年度からの4年間で推進期間とする秋田県総合計画では、進学者の多い学校においても大学等卒業後のキャリア形成を見据えたインターンシップの意義を周知し、参加率の更なる向上を図る。併せて、デジタル・インターンシップへの積極的な参加に向け、関係機関との連携を強化する。 ○ 事業推進拠点校1校に、就労支援コーディネーター1名を配置する。進路指導担当教員との連携により、個々の生徒の実態やニーズに応じて、週20時間未満の短時間雇用やテレワーク等、多様な形態での職場実習を企業に提案・調整し、マッチングを進めることにより、特別支援学校生の新たな雇用創出モデルを構築する。
②	○ 科学技術の進展や産業構造の変化等に伴い、地元企業等が生徒に求める専門的な知識・技術が変化している。また、指導する教員に必要とされる能力や指導内容も高度化している。	○ 「AKITA DXハイスクール・ラボラトリー事業」を実施し、資格取得の推進や外部専門人材の活用による最先端技術の習得促進などを通じて、地元産業に貢献できる人材育成を図る。また、専門高校の教員等を対象とした、最先端技術等に関する指導力向上研修会の機会を拡充する。

6 政策評価委員会の意見

--